

かもしがつくる つぎの防災減災

○ まちづくりが重要

↑ ↓

→ 地域の人とかがわる
互いに互いに知る

○ 地区によって違いがある
(例) 高齢者多い... 1人暮らし
若い人ばかり...

3.11 311 311 信州大学

かもしがつくる つぎの防災減災

学校教育

防災意識の広め方 ← いかに自分事として考えてもらうか
子どもから大人へ 継続
被災した地域から遠い場所にも

3.11 311 311 信州大学

かもしがつくる つぎの防災減災

- ・ 他人ごとにはしない
- ・ 多くの人に情報を
- ・ 個人の力をつける
- ・ 個人で記録を残す。

情報

3.11 311 311 信州大学

かもしがつくる つぎの防災減災

○ 過去を超える
過去に頼ることが防災ではない

アカイは 歴史を覚えておく
残すだけではない

使って一歩でも超える!
こと考え取!

3.11 311 311 信州大学

かもしがつくる つぎの防災減災

予測、危機意識 復興と観光は 絶対に異なる次元。

伝えるとは? → 自分事として伝えたい。
ご遺族の方、被災者の方が置かれた。
発信した、対応した下で終わらせてほしい。
→ 受け手がどのくらいに捉え、理解しているか。
どう反映されていくのか、やめて終わりにしない!

伝えたいことと 聞かれることが入っている。

伝えたい相手が 一致しない。

大学も行政も、つながらないと。
☆今日、行政がいない。
地域を主導する側
行政と取り組みが離れ。

御嶽山の地元に関心が低い。
危機管理がおろそかに...
→ ちとテコ入れし続けたいと。

3.11 311 311 信州大学

かもしがつくる つぎの防災減災

正しい情報を集める。
どのような危険があるか、知る。

→ 地域や家族で 共有 発信

次の次を考えておく
もし避難所が危険
だったら... など

災害が起る前に!

3.11 311 311 信州大学

かもしがつくる つぎの防災減災

学ぶ - 知識で終わりに
しない
- 自分のものになる

安全な行動につながる

3.11 311 311 信州大学

メディア防災減災

mass media researcher
Graphic by YURI NAKAO

はじめに



2011年3月11日から8年
メディアが何を伝えてきたか？
どうやって活かしていくか？
一緒に考えていくこと



防災復興
どう考えることができる？

ワークショップ「つぎの防災減災」

わたしがつくる

防災減災にむけて
社会のためにできること。

正しい？
・集める→知る→発信する
・多くの人に！高齢の人にも
・地域で共有する

復興×観光
伝説×間違った意見



活用
・次に何を考えるか
・他人ごとにならない
・継続

常に備えること
・情報をかみくだくこと→減災に！

常に被災者の声を集めて伝える

イントロダクション

災害時の記録と報道からみるメディアの使い方

防災減災に活かすためのアーカイブ



長戸文秀氏
信濃毎日新聞 編集委員

米川貴啓氏
松本本社報道部 写真記者



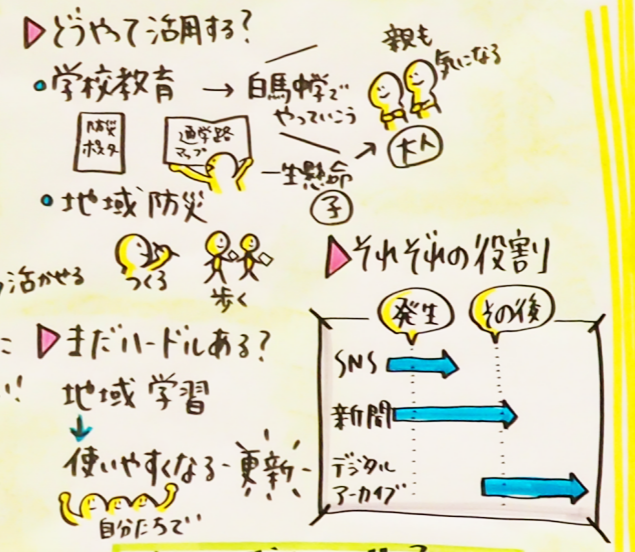
廣内大助氏
信州大学教育学部 教授

災害報道って？
近々に行くと聞く
速報性
思い出してもらう→今に活かす情報を

大事にしていること
・今何が起きているか
・どんな意味があるか
・どうすればいいの？
その地域 他地域
その後調査を続ける
PRSD サバイバルスキル
→何かの行動への一歩！

アーカイブって？
残して伝える
整理する
時系列
どこにおきた？
課題は？
普通の人が聴きたい！
まだハードルある？
地域学習
使いやすい→更新
自分の力で

何を残すか=共通
役割=それぞれ
そのまま→新聞にはできない
古い記憶
今
最新
そのま



できること
・個人で記録を残す
・個人の力をつなげる
・学び
・互いを支える
・子どもから学校教育
・被災していても自分ごとにする視点

周りのことをよく知ろう！
自分ごとにする→率先するひとりになる
過信しない

People's Living Lab みんなで考える場所 せしめよう！